

われもこつ 第34号

2013年2月27日 発行

われもこつの会は、15歳になりました。

1998年の春、活動の開始と同時に会報「われもこつ」第1号を発行。

その時の表紙の文が
われもこつの会の

原点です。

私たちの町軽井沢の町並みは、ここ数年でずいぶん変わったと思いませんか。特に、新幹線の建設や、新幹線の開通にもなつて側道や跨線橋が建設され、また、オリンピック施設ができ、その周辺道路の拡張など、昨年は町の景観が一変した年でした。ほかに宅地の造成やリゾートマンションの建設などなど。

そんなわれわれニンゲンの活動の陰で軽井沢の山野草たちは姿を消しつつあるのです。でも今なら間に合うかもしれない、昔よく見かけた花がこれからもずっと咲き続けてほしい！そんなわけで軽井沢に野の花を増やす会

われもこつの会

が発足しました。

(1998年4月8日号)



南仏紀行②

ヨーロッパアルプスから軽井沢が見えてきた！p.2

軽井沢のスマシたち.....p.5

会員の声.....p.7

ヨーロッパから

軽井沢が見えてきた!

江川良武



先回は、野草の写真撮影を趣味とする友人に誘われてフランスアルプスに行き、至る所に見られるスゴイとしか言いようのないお花畑について書きました。

実はその友人は、撮影を始めると花の前からほとんど動こうとしない。そこで私は業をにやしてサイクリングに切り替えました(こういうこともあるのかと自転車を携行していました)。聞いてはいましたが老若男女が自転車で続々と三〇〇〇mあるいはそれを超える峠に登って来るのです。はつきりいって軽井沢から峰の茶屋などの標高差はメジャな草。高々四〇〇mなのですから。

津温泉の先の、国道としては日本最高所の渋峠クラスあるいはそれ以上を、平日でも何百台という自転車が上がり下りしていました。山道ですから自転車専用道があるわけでもなく、むしろ勾配はきつめ、舗装も良くありません。日本より条件が良いというのではないのです。ただセンターラインを引けないような狭い道路でも、白線を引いて自転車車線を確保しているところがあります。またに向こうのドライバーは一般に猛烈なスピードで運転しますが、自転車を見れば一転して慎重になる。道路は自動車のためだけではないことが少なくとも日本よりは徹底してい

ます。遠方からのサイクリストも多いようで、私達の泊まったホテルにも自転車専用の車庫があり毎日満車の状態でした。私など日本では「年甲斐もなく・・・」と言われそうでもいつも下を向いて走っているのですが、早く堂々と走ることのできる自転車の町にしたいものです。それにしても軽井沢町の無料サイクリング用地図には「立入禁止」が多すぎる。よく走っている私などからすれば推奨したい道路ほど「禁止」になっています。一度警察に行つて聞いたのですが、「高速道路でない限り自転車でも走つていけない道路はない。『立入禁止』は何処かで勝手にやっているだけ」とのことでした。権力的な用語はなるべく使わないで欲しいものです。

自転車で走っていると車では見えないものが見えてきます。家々もため息が出るくらい美しい。土日などはご主人が至る所でマメに手入れをしております、ご自分の家を愛している

ことが直に伝わってきます。「百年程度は使うのが当たり前」の世界ですが、業者頼みではきめ細かな手入れなど出来るはずがない。虫歯と同じで、傷みは「点」から始まるのです。業者には頼みにくい、ちよつとした傷みを自分で直す、それが肝要です。よく「自分には技術がない」といいますが、技術などは後からついてくるものと思つていきます。

あちこちの家庭で薪つくりに励んでいました。木々も日本に比べて圧倒的に少ないのですが、薪ストーブは大抵の家で使い、環境の保全、暖かさ快適さの両立を図っています。それでいて、きれいな明るい森林を保っている。日本のように樹木をひたすら茂らせ、暗い野の花の乏しい森ではありません。

多くの山間の町に、昔からの家々と混じつて多くの別荘が建てられていることも知りました。いずれも景観といい、利便性といい素敵な別荘です。我が国の関東近辺では標高

八〇〇mくらいで土地利用が一変します。それより高い土地は農業が難しいために住家が激減し、勾配が緩ければ「高原」になります。ところがヨーロッパでは酪農業が盛んですから〇m〜二〇〇mくらいまで土地利用は連続しています。そして牧場は広いですから一角を別荘地にすることが難しくないのでしょう。要するに、「別荘は高原」ということはなく、どこの町にでも別荘が建てられるということです。我が国では軽井沢が随一の別荘地といわれますが、「他に少ないから」という、ただそれだけで珍重されているように思えてきました。

シャモニーで後学のために別荘の価格を聞いてみました。向こうでは中古が当たり前ですからその価格です。大体、軽井沢の一〇倍でした。シャモニークラスになると、ヨーロッパ中のお金持ち向けとなるのでしよう。東南アジアのリゾートに詳しい方が、軽井沢に戻つてくると大概

の別荘がみずばらしいのに驚くと話しておられました。東南アジアもおそらく特別のお金持ちが持つものなのでしょう。「軽井沢は高級リゾート」といわれますが、社会の格差が大きくなったとはいえ、所詮はまだまだ貧富の差の少ない日本の中だけで通用する表現と思います。「軽井沢はナンバーワン」にとられて、他のリゾート地に学ぶことをおろそかにしてきたのではないでしようか。人口が二万人になろうとする今、自分たちの立ち位置をしっかりと見直すことも必要と思います。



二〇一三年、夢に導かれて



新しい年明け、毎年のことなのに今年は何特別な心改まる思いがいたします。みなさまいかがお過ごしでしょうか。

軽井沢に日本で初めての朗読専用のホールを作って三年がたちました。

声の出る限り、また朗読館までの急な山道を足で登れるあいだは、朗読の楽しさを広める活動を軽井沢を拠点に続けて行こうと思っております。このたび、思いもかけず新しくできる町立図書館の館長のお話をいただきました。

晴天の霹靂とはこのことで、私のような非力な者が果してお引き受けしていいものかどうか……とても悩みましたが、新しく出来る図書館は、上品でオシャレな外観に、駅ナカというか駅ウエというか思いきった場所。夢のような立地条件です。朗読と言う音声芸術を多くの人と共有し、広め、日本語の美しさをどなたも楽しめる情報発信図書館にしたいなど朗読家の夢がどンドン膨らみ、夢に導かれるままにお引き受けすることになりました。

軽井沢にはこれまで離山図書館という静かな美しいたたずまいの

図書館がありました。離山図書館はこれまで通り、読書と静けさ、清透な空気を心から愛する方たちの場所として健在です。町立図書館の館長としてこの二つの館長を務めます。もちろん軽井沢朗読館は我が分身のようなものですので、こちらも楽しく続けて行こうと思っております。

今年一月一日から軽井沢の図書館長に就きますが、中軽井沢駅舎「沓掛テラス」の新駅舎内にある図書館は四月一日オープンです。どうぞ春になりましたらおいで下さい。そして(たぶん)あたふた動いているだろう私に)ぜひお声掛けください。(二〇一三年元旦)

軽井沢町立図書館館長

青木裕子

軽井沢のスマレたち

小泉洋子

最近軽井沢のスマレが少なくなったように感じるのは私だけでしょうか。昨年は豪雨によって山際の土砂が流され、スマレが犠牲になったのではないかと心配しています。

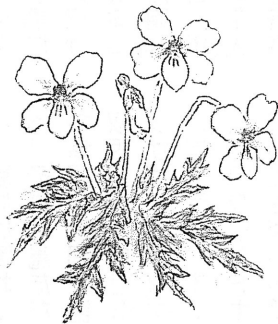
スマレは昔から人々に愛されてきました。古代ギリシャではアテネの象徴であったそうですし、ナポレオンが最も愛した花だったともいわれます。日本では万葉の時代から歌に詠まれ、清少納言にも好かれたといわれます。



マルバスマレ 円葉堇。
丸味のあるハート形の葉。白い花。日当たりの良い所に生える。

もうじきスマレが咲く季節です。夕つボスマレ、アカネスマレ、ヒメスマレ。軽井沢で出会えるスマレたち。ひっそりと可憐に咲き残って私たちの目を楽しませてくれますよう願っています。

ニョイスミレ 如意堇。
葉の形が僧侶の持つ如意棒に似ていることから。山野の湿った草地に生える。



エイザンスミレ 叡山堇。
比叡山に咲くスマレの意。樹下の半日陰に生える。花は淡いピンク色。

ヒナスミレ 雛堇。かわわそうで愛らしい姿かたちのスマレ。林下の腐植地に生える。

◆温泉でリフレッシュ



週末は出来るだけ草津温泉に通っている。軽井沢に住んで、週末は草津温泉にハマッてるなんて友人に話すと「何て贅沢な生活を大槻はやっているんだ！」と羨ましがられる。しかし、私からするとそんな浮いた気持ちにはなく、かなり深刻な思いでいるのだが。

実は一年半程前に全身に湿疹が出た。とりわけ足の裏と手のひらに痒みがでて炎症が起き、皮膚が剥けてしまふ厄介な病気で「乾癬」と言われた。原因不明で、治療法は対症療法でステロイド剤を使う。そんな困った病気について、草津温泉の某リゾート施設にいる知人に相談したと

会員の
声

ころ、直ぐに草津で湯治にでも来るべきとの返事。草津温泉の効能は皮膚病にはテキメンとか。一年前の今

頃、一週間の休みを取って湯治生活に入ったのが温泉通いにハマったキッカケになっている。草津の湯は

「湯畑」で知られる硫酸分を含んだ強酸性湯で、多少の傷は一発で治る。かなり熱い湯ではあるが、三分間入浴した後同等の休みを入れる。これを三回繰り返して、三〇分の入浴を一セットとし、一日三セット

の入浴を行う。地元ではこの温泉を「綿(わた)の湯」と言い、入った

時のお湯心地が真綿に包まれているようで、柔らかい温かさが自慢の湯である。三〇分単位に男女が入れ替わるため「時間湯」とも言われており、草津の伝統的な湯治場での湯の使い方を伝えている。幸い、病気の方も徐々にはあるが回復基調にあり嬉しい限りであるが、軽井沢からの往復の二時間が、夫婦のコミュニケーションでは一番充実した時間となる。子供の事、仕事のこと、世間様の事など、これまで「仕事人間」が失礼してきた夫婦の会話を取

り戻した事が一番の幸せと、温泉通いにハマっている。

「蛇足」入浴時間の交代制を知らずに、男性の時間に女性が飛び込んでくるハプニングを何度か体験しているのも、スリリングライフの追求という人生訓によるハマりの原因かも。
大槻幸一郎

◆至福の冬、幸運な瞬間

軽井沢に朗読館を建てて三度目の冬、思いがけず町立図書館の館長になり、真冬も軽井沢で過ごすことになった。夏とは違う軽井沢の姿にハマっている。葉が落ちた木々の間から、夏には隠れていた浅間山が見える。それに鳥たちの姿が見える。いつ幸運な瞬間が訪れてもよいように双眼鏡が手放せなくなった。冬はミソサザイもアカゲラも不用心になるのだろうか、すぐ近くまで来てくれた。ワクワクドキドキしながら軽井沢の冬を楽しんでいる。青木裕子

テーマ：いま
はまっています!



◆変形した手

私は三年程前より右手第一関節が腫れ、リュウマチかと思ひ受診したところ、ヘバーデン結節の病名がつきました。原因は、加齢そして遺伝、それから使いすぎ?そのため大好きな草取りや雪かきをひかえています。

六十の手習いでパッチワークでもやろうと考えておりましたが、指抜きをはめての縫い物が思うようにならないため、別の趣味を見つけた方がよさそうです。

しかし、十二月のわれもこの会のクリスマスリース作りは、手が痛くても出来ませぬ。毎年先生が沢山の材料を用意して下さり、好きなように作らせて下さり、昨年はお正月飾りまで作ることが出来ました。今年が良い年になります。 M. T.

◆netで句会進行中!!!

昨年より、学生時代のクラブ仲間
で自然発生的に句会が始まりました。
クラブは、夏山主体のハイキング
クラブで女学生も気軽に参加でき
当初はかなりの部員がおりました。

卒業後、十五名程で毎年十二月に後
輩のちゃんこ屋(函国)で忘年会を
しています。一昨年誰からもなく
俳句の話が出ると、結構嗜んでいる
人が多く盛り上がり、それではと同
期の一人が幹事役を買って出て始ま
ったのがハイキングクラブならぬ
「俳句ingくらぶ」です。

句会の方法は、◎テーマ句、自由
句双方を最低一句毎月月末までに幹
事宛てに送信する。◎幹事は、送信
された句をテーマ句、自由句に分類
し、まとめて詠み人を伏せて会員へ
送信する。

お互いに誰がどの句を作ったかわ
からないので、推測する楽しみもあ
ります。いくつか紹介しますと、

吾ひとり腰の上からぬ年用意

アメ横で衝動買いの師走かな

悴^{かじ}みて思考回路の行き詰まる

コロッケの温み谷中の冬夕焼

以上テーマは「師走」でした。

続きまして春の句を。

立春やスイングジャズに酔い潰れ

ふんわりと舞ふが如くや朧月

春の昼ひとり占めするローカル線

春眠の出口何処と探しをり

いずれにしても皆さん自由気儘
に、誰にも何も言われぬ自己流
句作りをしているので、これから
も絶えることなく続行すると思ひ
ます。今度一度、呑みながらお互
いに句を褒めたり、けなしたりし
たりする機会を・・・と考えてい
ます。 つっちー

われもこうの会
2012年度総会のおしらせ



<日時> 2013年 3月17日(日) 午後1時30分より

<会場> 軽井沢町中央公民館 第3会議室

- ◆会場準備のお手伝いができる方は1時15分頃集合して下さい。
- ◆昨年われもこうの会の原っぱで収穫した野の花のタネをお配りします。
- ◆会員以外の方も歓迎します。何かやってみようかな…と考え中ならぜひ見学に来て下さい!ワイワイお茶会しながらの総会です。



第3回ボランティア見本市のおしらせ



なにかボランティアをしたいと
思っている皆さん!いろいろな
お店や活動団体のPRを見て自
分にできること探しませんか?

- ◆期日 3月24日(日)
- ◆時間 午後1時30分~4時
- ◆会場 中央公民館 大講堂

お問い合わせは

軽井沢町社会福祉協議会
ボランティアセンター
TEL.0267-45-8113



昨年のボランティア見本市で友人が山野草の種をわれもこうから頂き今年芽が出るのを楽しみにしています。

外から移住してくる方は(私もそうでしたが)庭を綺麗な園芸種で作るのを当たり前にして軽井沢に自生する山野草を知らない方が多くいます。そんな方の為に種を配るのはとてもいいことだと思います。是非続けて下さい。

編集後記

15年前、植物園や町民・別荘民の方々から戴いた山野草の花がわれもこうの会の原っぱを彩り、種分け株分けをして会員の庭にも増えていきました。その花々がまたどこかにもらわれて行って、だれかを癒しているのかも…。

ホームページもご覧ください

<http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/>